

一次調査票 No.50-056

日本聖公会八木基督教会

分野：宗教

所在地：橿原市南八木町

構造：木造2階建

竣工年：昭和11年(1936)

日本聖公会八木基督教会は、JR 畝傍駅の南西、飛鳥川の堤近くに位置し、昭和11年、北川千代吉牧師の時代に日本聖公会八木教会として建設された教会建築である。意匠から正門も教会堂と同時期建設と考えられる。なお、牧師館は建替えを繰返し現在は3代目の建物である(2代目は奈良基督教会の設計者である大木吉太郎設計と伝わる)。

教会は、木造2階建、切妻棧瓦葺で、外壁は黄味帯びたモルタル掻き落としに下見板張りの腰壁を持つ。東妻壁にはロマネスク風の半円アーチ三連を持つ出窓があり、周囲の町の景観を印象付けている。

平面構成は、東西に長い単廊式の身廊と祭壇脇の両側に付室をもつ十字型平面で、北側に拝廊(玄関)を持つ(南西部は給湯室を増築している)。

内部は、東に主祭壇を構え、身廊は吹抜けになっており、アーチ状の方杖を使ったキングポストトラスが並ぶ。祭壇正面上部には三連のアーチと列柱を意匠化した透かし彫りの欄間が入り、質実な中でも華やかさを感じる意匠が見られる。

この教会の礼拝堂は、身廊西側四分の一に、棧敷席のように2階が張り出すのが大きな特徴である。和室から祭壇側の襖が大きく開き和室からも礼拝できる。

礼拝場の洋小屋組に対して、和室の小屋裏は和小屋組となっている。小屋裏には長尺の水平筋違いが入れられているほかに、建設中の写真によると壁内は垂れ壁に至るまで、多くの筋違いが入れられ、耐震性能を考慮されている。

この建物の設計者は、光安梶之助、大工は福井辰蔵と伝わる。光安梶之助は、明治33年(1900)から昭和5年まで住友本店の



写真1 建設中の写真(「百年史より」)

臨時建築部に所属していた。住友銀行の店舗などを手掛け、中でも住友ビルディング(大正15年、1926)建設の折に、現在の日建設計の基礎を築いた長谷部鋭吉、竹腰健造と共に光安梶之助が構造を担当したと記録されている。

和洋の混在を機能的にもうまく処理し、ダイナ

ミックで厳かな祈りの空間を作り上げている本建築は、八木の伝統的な町並みの中に溶け込んだ、教会建築として価値が高い。(稲上)

参考文献：『八木基督教会百年史』(日本聖公会八木基督教会教育委員会、2010) / 「聖堂の建築について」(谷道央、2010)



写真2 外観(東より)



写真3 身廊内観(東より)

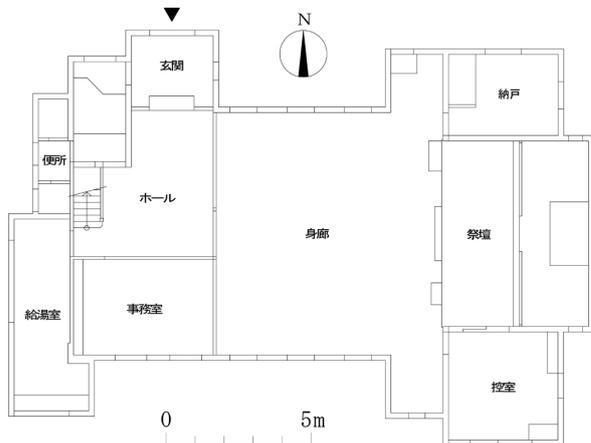


図1 1階平面図